

再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担 当 課:都市局 街路交通施設課

担当課長名:青柳 太

事業名	連続立体交差事業 近畿日本鉄道奈良線(若江岩田駅 ^{わかえいわた} ～東花園駅 ^{ひがしはなぞの} 付近)				事業区分	連続立体交差	事業主体	大阪府			
起終点	自:大阪府東大阪市西岩田 ^{にしいわた} 至:大阪府東大阪市桜町 ^{さくらまち}					延長	約3.3km				
事業概要											
近鉄奈良線の若江岩田駅～東花園駅付近約3.3kmにおいて鉄道を高架化することにより、9箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業。											
H4年度事業化			H4年度都市計画決定		H5年度用地着手		H14年度鉄道工事着手				
全体事業費		約713億円		事業進捗率		約98%		供用済延長	約3.3km		
計画交通量		221,816台時／日(踏切交通遮断量)									
費用対効果分析	B/C	EIRR		総費用		(残事業)/(事業全体)		総便益		(残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体)	(事業全体)		(事業全体)		7/1272億円		830/1427億円			
	1.1										
	1.8	〔2%〕		4.5%		事業費: 6/1271億円		移動時間短縮便益: 778/1336億円			令和6年
	2.4	〔1%〕				維持管理費: 1/ 1億円		走行経費減少便益: 45/ 80億円			
	(残事業)	(残事業)						交通事故減少便益: 6/ 10億円			
	(参考)	1.1									
(参考)	1.3	〔2%〕		4.5%							
(参考)	1.5	〔1%〕									
事業の効果等											
・踏切除却により踏切事故が解消される。 ・踏切除却及び渋滞緩和により緊急車両の通行が容易になる。 ・駅及びその周辺施設の整備にあわせバリアフリー化が促進されるなど。											
関係する地方公共団体等の意見											
早期の事業完成を望んでいる。											
事業評価監視委員会の意見											
継続について妥当である。											
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等											
周辺環境等に特に変化はない。											
事業の進捗状況、残事業の内容等											
用地取得率約98%、事業進捗率約98% 平成26年に鉄道高架が完成。											
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等											
工事進捗率は97%となっており、平成22年5月に下り線、平成26年9月に上り線の高架切替が完了し、事業区間内の全ての踏切を除却済み。 主な残事業は、堤防復旧や用地買収が難航している一部の側道整備である。											
施設の構造や工法の変更等											
今後も工法の見直しによる工事コストの縮減等に努めていく。											

対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。
事業概要図	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。〔 〕内は社会的割引率の値)